

【英語】

日大の英語は東京女子医大と並び、非常に実用的な英語を重視しているという印象を受ける。しかし SECTION①②のように単語の細かい語法やしっかりした英文法の理解がなければ解けないような問題構成になっている。

中にはビジネス英語に見られる **to whom it may concern** 「関係者各位」のような決まり文句も挿入されている。

更に医療用単語の知識が日大の場合はあった方がよい。この単語の意味が出て来るかどうかで問題文の内容が影響される場合があるので医療系単語に詳しい受験生には有利な点もあるだろう。

直前にやることは単語力のアップと細かい文法知識の確認だろう。多量に解いた文法問題の自分が間違えた問題を短時間で見直しできるサブノート等があればいいだろう。

painmedication	鎮痛剤	dosage	服用量
light headed	目まいがする	adverse effects	副作用
pass out	失神する	episode	症状の発現
paramedics	救急医療隊員	brain confusion	脳挫傷
cramps	腹痛、生理痛	indigestion	消化不良
belly button	へそ	appendicitis	虫垂炎
inflammation	炎症	faint	失神する
respiratory infection	呼吸器感染	stich up	縫合する
discharge	流出物	drowsy	眠たい
gut	腸	vomit	嘔吐する

【化学】

日大化学の特徴は大きく次の2点であると思われる。

- ① 量が多く、時間的余裕がない。
- ② 前半の理論・無機融合問題は標準レベルで後半の有機の中に難問がある。

この2点から言えることは、例えば先に有機を解くといった奇策は用いずに一番から順番にやや早いペースで処理していき、有機の最後で60分以内に処理するといった攻め方が有効であると思う。内容を見ると、まず無機および三大栄養素は幅広く出題されるので全体的に細かくチェックしておく必要がある。有機では実験結果から分子式、構造式を決定していく問題が複雑なので特に異性体の考え方には慣れておこう。

理論においては電離平衡や気体に意識が行きがちになるが、「差」がつきそうなのはそれ以外の分野だと思う。今年度は熱、電池、溶解度が要注意であると思われる。

【生物】

日大の入試生物はマーク式で、多少細かな知識問題も計算・実験考察問題も、また動物関連も植物関連も各々分け隔てなく出題されるのが特徴である。

他大学で最近よく見られるような思考問題がある一方で、話題的に古いタイプの問題も散見される。ここ3年ぶんの遺伝子分野だけ例にとってみても、2012年度に緑色蛍光タンパク質 GFP やルシフェラーゼを用いた遺伝子工学が扱われたと思っていたら、14年度は多少隔世の感の否めないマクサム・ギルバート法による塩基配列の決定が大問1個ぶんのテーマとなった。

予想に際してそのような困難さはあるが、今年の流れとしては、細胞周期の計算、DNA 計算、筋収縮や呼吸の詳しいしくみや計算、一遺伝子一酵素説、X 染色体不活性化、酸素解離曲線、腎臓のつくりと尿計算、植物ホルモンの働き、中立説と分子時計、食物連鎖と生産効率などを中心に、その典型的な計算法を含めて一通りは事前チェックしておくべきである。

その他、知識問題の選択肢を吟味する際は、無用なケアレスミスを防ぐため、できるだけ最後の選択肢までしっかりと読んでから解答することが望ましい。健闘を祈る！